

学校名	岩手県	岩泉町立小本小学校	岩泉町立小本中学校

活動のテーマ	「生き抜く力を育む防災教育の推進」 ～主体的・協働的な教育活動および小中連携の取組を通して～		
主な教科領域等	教科領域（総合的な学習の時間・道徳・特別活動・学校行事）		
活動に参加した児童生徒数	全学年	小学生 61人	中学生 40人 計101人
活動に携わった教員数		小学校 18人	中学校 15人 計23人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	318人【保護者・地域住民・その他（行政機関関係者）】 ※地域総合防災訓練時 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）		
実践期間	平成29年4月10日～平成30年3月18日		
想定した災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他（ ）		

### 活動報告

#### 1) 活動の目的

「生き抜く力を育む防災教育」

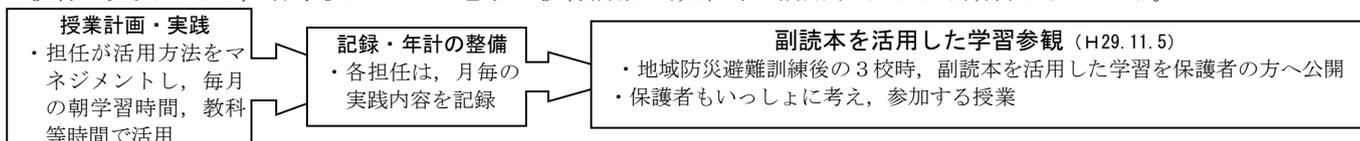
小本地域の児童生徒が、復興・発展を支える人として成長していくためには、東日本大震災とH28 台風10号による災害を乗り越えたとともに、これらの経験を活かし、自然や社会の様々な変化や状況で「生き抜く力」を身に付けさせることが必要であることから。

#### 2) 主な実践内容と流れ、スケジュール

##### 【小学校】

##### ① 「いわての復興教育」副読本の活用

「いわての復興教育」副読本…震災後に県教委により作成され、県内全小中学校に配付されている。復興・防災教育の充実のため、各学校において通常の教育活動で効果的に活用することを期待されている。

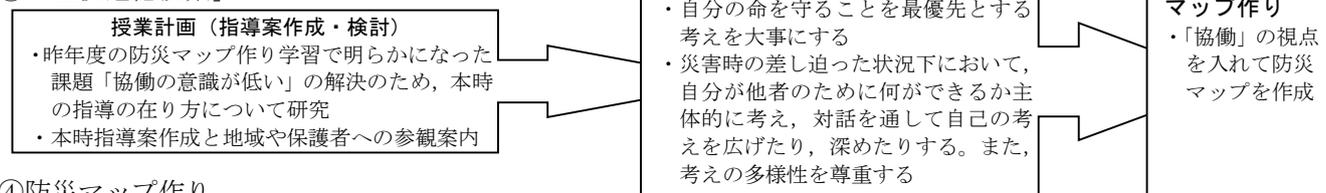


##### ② 社会科見学や生活科探検、宿泊学習等の校外学習と関連させて防災意識を育てる

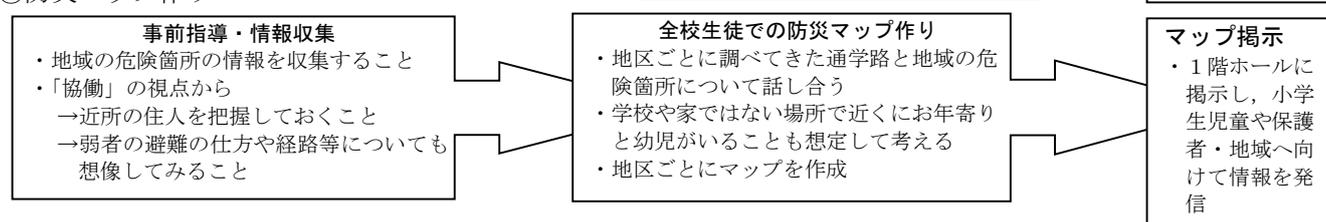


##### 【中学校】

##### ③ 「全校道徳授業」



##### ④ 防災マップ作り



【小中連携】

⑤各種合同避難訓練

**事前指導**  
・災害の種類と安全な避難等について考え、確かめる

**各種合同避難訓練**  
・4/25 小中合同避難訓練（火災：授業中）  
・9/1 保・小中合同避難訓練（地震・津波：清掃中）  
・11/5 地域防災避難訓練（地震・津波：**登校中**）  
※小中・保護者・地域・行政合同での実施

**振り返り・事後指導**  
・対話や小グループでの感想交流  
・振り返りカードの記入  
・第3者による全体講評

⑥地域防災避難訓練（11月5日（日）実施）

(ア) 小中各担当者

**事前打合**  
・役場防災対策室、地区自治会団体、支所、スクールバス運転手等との連絡調整

**訓練細案作成と教職員の共通理解を図る**  
・ねらいの確認  
・教職員の動きの確認  
・事前・事後指導の具体について確認

**保護者への周知**  
・休日であるが登校日として訓練を行うこと  
・朝の登校時間に行うこと  
・同日に学習参観、下校時に引渡訓練を行うこと

**反省**  
・教職員より反省をとりまとめ、次年度への改善を図る  
・行政と反省をつき合わせ、次年度へいかす

(イ) 児童生徒

**事前指導Ⅰ：各学級（小学校）  
全校生徒（中学校）**  
・災害日時と災害の大きさ、初期対応と避難時の鉄則等を考え、確かめる  
・中学生は、共助・公助についても考える

**事前指導Ⅱ：登校班毎（小学校）**  
・災害時の場所に応じて、適切な避難の仕方を考え、確かめる  
・小学校上学年は、共助の在り方についても考える

**地域防災避難訓練**  
・揺れが収まるまで安全確保  
・近くの避難場所高台へ避難

**振り返り・事後指導**  
①各学級→②登校班毎（小学校）  
・学びを交流、成果と課題を確かめる

3) 9月研修会の学びを通して

①自校の実践に活かしたこと

- ・「自助・共助・公助」についての教職員の理解を深め、児童生徒への事前指導を確かなものとして地域防災訓練を行った。
- ・防災・減災教育の意義と育て身に付けるべき力について教職員の共通理解を図り、防災・減災教育の推進を図った。

②研修会を受けての自校の活動の変更・改善点

- ・日常の教育活動の中において防災意識を育てていく必要性について教職員の共通理解を図り、実践化を図った。
- ・防災・減災を「自分ごととして捉える」意識を高めさせるために、児童生徒による話し合い活動を意図的に位置付けて大切に指導した。

③昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- ・教職員の防災・減災教育への意識を高めさせたことで、児童生徒の学びに向かう姿勢も主体的且つよりよいものとなった。
- ・緊急時の児童生徒・教職員の安全確保に関する現有物品をチェックし、ラジオや懐中電灯等の不足分を揃えることができた。

4) 実践の成果 [ ⑥地域防災避難訓練について ]

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

- ・登校時間の災害を想定した訓練を計画したことにより、登校途中の通学路において、その場で判断して適切な避難行動をとることが困難であるという児童生徒の実態が明らかになった。その後の指導と次年度計画への改善につなげることができた。

②児童生徒にとって具体的にどのような学びがあり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

- ・「自分の命は自分で守る」ために、災害を想定したときに起こり得る危険、そして、それに応じた安全確保と避難について想像する力を高めることができた。

③教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

- ・地域一丸となった防災訓練は、それぞれの立場で防災意識を一層高める結果となった。
- ・教職員にとっては、命を守るために様々な人や機関が有機的に結びつき関わっていることを実感することができ、考えを深めることができた。

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

- ・小中連携による避難訓練を当たり前に行っている。その際、小中担当者を中心に連携を密にとりながら計画している。更に、保育園と連携した避難訓練や地域や関係機関と連携した実効的な避難訓練を実施している。
- ・児童生徒による主体的な話し合い活動を核に据え、課題解決や振り返りを位置付けている。
- ・防災教育の様子を学習参観日に位置付けて公開し、保護者の意識も高めているところ。

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

- ・本校の現在の防災・減災教育を見直し、必要に応じて適切な学習へ改善を図り教育課程へ明確に位置付けて実践を継続していくこと。また、外部専門機関との連携についても積極的に計画していくこと。
- ・避難所指定であることから、中学校を中心に避難所運営に関する訓練を行政と連携して行うこと。

【補助資料：実践記録】

①「いわての復興教育」副読本の活用  
[H29.9月実践記録から抜粋]

学年	副読本活用P	児童の反応など
1年	59P ショート訓練をやってみよう	副読本の他に緊急地震速報の音を聞かせて、実際に安全を確保する行動を繰り返し行った。初めて聞く音に驚いていたが、身を守る方法について既習も活かして考えていた。
2年	10P はしれ釜石キッチンカー	小本にオープンした愛土館の様子を聞き、小本の人たちが、「津波でまちが淋しくなったのでみんなが楽しめる場所をつくりたい」という思いでつくったことに気づいた。「地域の復興に役立ちたい」という釜石キッチンカーのお話と同じ思いであると気づいた。

【副読本を活用した授業の様子】



【副読本活用による学習参観：4年実践例】



今日は、明治、昭和と自分の生まれる前から、大きな災害があつて、たくさんの方がなくなつたりしたけれど、それに対するおなえがあれはよいことがわかりました。



今日は、おうちのひとといっしょに学習をしました。私たちの意見のほかに、おうちの人の話を聞くことができたのでよかったです。

私は、一番目に飲み物と考へたけれど、親に、「水のほうが傷口などを洗えるよ。」と言われた時、飲み物がいいわけではないと思ひました。

防災リュックに入れる物を四つえらぶのは、すごく難しかったけれど、お父さんに教えてもらつて選ぶことが出きました。

津波や地しんは、いつ来るか分からないということが分かりました。これからは、いつ災害が来ても対応できるようにします。



今日は、みんなで話し合ひ、防災リュックに入れる物をたしかめました。いろいろな物が出たので、災害のときに持つていきます。



小さかつたけれど、大震災の時、津波から必死で逃げたことを覚えていきます。

私は、ライフラインが止まった時のために、持つていくものなどを親ときちんと話し合おうと思ひました。

②社会科見学や生活科探検、宿泊学習等の校外学習と関連させて防災意識を育てる  
[生活科探検：1・2年実践例]

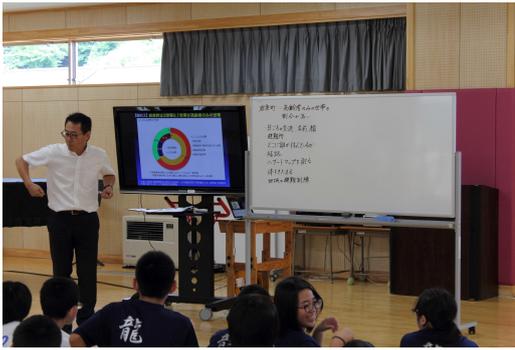


追体験後、小グループで感想交流



生活科探検の中で、震災時に実際に避難に使った階段を追体験

### ③「全校道徳授業」



命のおもさ  
 ・みな同じ…命は一つ  
 ・中学生 赤ちゃん  
 …これからの社会を支える

↓  
 かけがえない命

課題  
 かけがえない命を守るために、  
 自分は何ができるのだろう。

- 避難所へ行く、伝える
- 連れていけたら
- 全員連れていく
- 自分で逃げる

今にも川が氾濫するかもしれないというとき、  
 あなたは、どうしますか？

小さな子ども 車いすのお年寄 杖をついたお年寄



自分たちが住む地域の現状を知り、近隣やその人々に目を向け、「どうすることがよりよいことか」について話し合う



### ④防災マップ作り



夏季休業中に収集した情報を互いに共有し、話し合いを進めながら必要な情報を付箋に書き出して防災マップに落とし込んでいく

### ⑤各種合同避難訓練



11/5  
 地域防災避難訓練

津波警報解除の合図で、各避難場所から地域防災センターへ全員が集合

4/25 小中避難訓練

9/1 保小中避難訓練

◎地域防災避難訓練（11月5日（日）実施）

10/17 学校・行政・各地区代表者・関係機関等事前打合



10/24 スクールバス運転手事前打合



11/2 小学校：学級→登校班 事前指導



11/1 中学校：全校事前指導



**分岐点：高速入口交差点**

地震発生時	揺れがおさまった後
信号を渡る前	防災センターへ避難
信号を渡り始めた	学校（北側高台）へ避難
信号を渡り終えた	学校（北側高台）へ避難



**登校時に大地震が発生**

①安全な場所で、しゃがむなどの安全行動  
 ②ゆれがおさまったら、次の行動（大津波発生の可能性あり）

11/5 午前7:52 避難警報発令



校舎裏山高台へ避難した小中学生や保護者



防災センターから登校後、各学級→登校班で振り返りをした（小学校）

